

波聞風問

はもんふうもん

編集委員

たがやかつひこ
多賀谷克彦



財界が開く絵画展 対話型鑑賞 いま必要な能力

2年前、パリのオルセー美術館を訪ねたとき、日本の美術館では見慣れない光景を目にした。マネの代表作の一つ「笛を吹く少年」の前で、小学生十数人が床に腰を下ろしていた。先生らしき人が話しかけている。しばらくすると、子どもたちが次々と話し始めた。どうやら絵の感想を語り合っているようだった。

でも、学芸員の説明を一方的に聞くことが多いだろう。オルセーでの光景を思い出したのは、関西経済同友会が今秋、会員企業が所蔵する絵画を持ち寄って展覧会を開き、小学生を招待するという話を聞いたからだ。しかも、オルセーで見たような「対話型鑑賞会」を開くという。

美術鑑賞・教育といえば、作品にまつわる情報、時代背景や技法などが重視される。いわば「この絵はこう見なさい」という一方的な教えだ。対話型は違う。ナビゲーターとともに、絵から何を感じ

るかを考える。直感力や、それを感じた根拠を説明できる表現力が求められる。他者の感想も聞く。異なる意見をどう受け止めるか。彼らとどう対話するか。コミュニケーションの基礎である。

この鑑賞法は1991年、ニューヨーク近代美術館(MOMA)が開発した。MOMAに勤務し、対話型の普及に努めた京都造形芸術大教授の福のりさんが同僚から聞いた話がある。小学生の男の子にマネの「睡蓮」を見せたとき、彼は「カエルが葉の上に乗って泳いでいる。僕が来たから

池に逃げた」と言った。マネはカエルを描いていない。だが、彼は描かれた数多くの波紋からそう思ったらしい。福さんは言う。「学校の授業なら、何を言っているの、となるでしょう。でも素晴らしい想像力じゃないですか」

対話型鑑賞によって養われる力は、子どもだけでなく、社会人にも求められるものだろう。私たちが受けてきた教育は、用意された答えを見つけて作業だった。でも、対話型にあらかじめ用意された答えはない。これからの時代に求められるのは、社会の課題

がどこにあるかを見つける力だろう。問題を見つけれなければ先には進めない。さて経済団体といえは、財政や税制など自らの企業活動の利害に絡む政策課題について提言するのが主な仕事だった。ただ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)が示すように、社会が抱える課題は多様化している。政府や公的機関だけでは解決できない課題がほとんどだ。

展覧会を企画した一人、関西経済同友会の坂上和典さん(博報堂特任顧問)は「提言だけではなく、経済団体も地域社会、次世代の人たちに何ができるかを考えるとき」と語る。自らの役割を見つめ直して見つけた問いである。

日本ではこうはいかない。美術品は、静かに鑑賞するべきもの。何人かがしゃべり始めようものなら、しかられるだろうし、小さい子どもも、あまり歓迎されない。鑑賞会

でも、学芸員の説明を一方的に聞くことが多いだろう。オルセーでの光景を思い出したのは、関西経済同友会が今秋、会員企業が所蔵する絵画を持ち寄って展覧会を開き、小学生を招待するという話を聞いたからだ。しかも、オルセーで見たような「対話型鑑賞会」を開くという。

美術鑑賞・教育といえば、作品にまつわる情報、時代背景や技法などが重視される。いわば「この絵はこう見なさい」という一方的な教えだ。対話型は違う。ナビゲーターとともに、絵から何を感じ

るかを考える。直感力や、それを感じた根拠を説明できる表現力が求められる。他者の感想も聞く。異なる意見をどう受け止めるか。彼らとどう対話するか。コミュニケーションの基礎である。

この鑑賞法は1991年、ニューヨーク近代美術館(MOMA)が開発した。MOMAに勤務し、対話型の普及に努めた京都造形芸術大教授の福のりさんが同僚から聞いた話がある。小学生の男の子にマネの「睡蓮」を見せたとき、彼は「カエルが葉の上に乗って泳いでいる。僕が来たから

池に逃げた」と言った。マネはカエルを描いていない。だが、彼は描かれた数多くの波紋からそう思ったらしい。福さんは言う。「学校の授業なら、何を言っているの、となるでしょう。でも素晴らしい想像力じゃないですか」

対話型鑑賞によって養われる力は、子どもだけでなく、社会人にも求められるものだろう。私たちが受けてきた教育は、用意された答えを見つけて作業だった。でも、対話型にあらかじめ用意された答えはない。これからの時代に求められるのは、社会の課題

がどこにあるかを見つける力だろう。問題を見つけれなければ先には進めない。さて経済団体といえは、財政や税制など自らの企業活動の利害に絡む政策課題について提言するのが主な仕事だった。ただ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)が示すように、社会が抱える課題は多様化している。政府や公的機関だけでは解決できない課題がほとんどだ。

展覧会を企画した一人、関西経済同友会の坂上和典さん(博報堂特任顧問)は「提言だけではなく、経済団体も地域社会、次世代の人たちに何ができるかを考えるとき」と語る。自らの役割を見つめ直して見つけた問いである。

展覧会を企画した一人、関西経済同友会の坂上和典さん(博報堂特任顧問)は「提言だけではなく、経済団体も地域社会、次世代の人たちに何ができるかを考えるとき」と語る。自らの役割を見つめ直して見つけた問いである。